

豊かな発想力や創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善について ～これからの社会を生き抜くための学力を育む教育課程の工夫～

千葉県浦安市立高洲北小学校 西原 隆

I 現状と課題

1 現状認識

本校は創立14年目で歴史の浅い学校である。学区は東京湾を埋め立ててできた地域で、転居により、都内・他県など多地域から集まってきている核家族の家庭が大半である。学校は地域との連携を築きながら、地域コミュニティ醸成の一役を担っている。当然のことながら、保護者は教育への関心が高く、学校への期待や要求が大きい。

児童は、素直で明るく、あいさつがきちんとでき、礼儀正しい児童が多い。学校行事や日常の学習活動からは、知性的な姿がうかがえ、能力がよく発揮されている。反面、学力の個人差が大きいこと、高学年において自己肯定感が低いこと、都市的で人工的な街に住んでいる住環境から自然体験が極めて少ないことなどの課題がある。

2 課題分析・アプローチの視点

これからの未来社会では、予測できない急激な変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って、その過程の中で、自らの可能性やよさを発揮し、よりよい社会の創り手となることが求められている。

また、第2期教育振興基本計画には、「社会を生き抜く力」の養成として、新学習指導要領を踏まえた言語活動等の充実、ICT活用などによる協働型・双方向型学習の推進、道徳教育の推進、いじめ問題への取組の徹底、教員の資質能力向上などが掲げられている。

これらのことを踏まえ、本校においては、次のような方針で教育課程の編成を行い、本主題にアプローチし、迫ることとした。

- (1) 「確かな学力・豊かな心・健やかな体・郷土愛・豊かなかかわり」をバランスよく備えた『情操豊かで知性的な児童の育成』をめざす。
- (2) 一人一人の児童の人権を尊重し、凡事徹底と積極的な生徒指導を展開するとともに、生徒指導の機能を生かした授業および学級経営を実践する。また、道徳教育の推進により、豊かな人間性や社会性を育む。
- (3) 国語科の研究を軸に、各教科・特別活動において児童の学びや活動に主体性を持たせ、仲間と協働しながら、創造的なことに挑戦する児童の育成をめざす。

II 研究の概要

1 本校の教育課程の編成と実施について

本校の教育課程における主題に迫る主な取組は次の通りである。

- ア 言語活動の充実
- イ 積極的な生徒指導と生徒指導の機能を生かした授業
- ウ 特別活動の充実
- エ 「総合的な学習の時間」の取組
- オ 道徳教育の推進
- カ 外国語活動の推進
- キ 高洲中学校区小・中連携一貫教育の推進
- ク 地域との連携

2 浦安市としての特色ある取組

- ア 英語教育の推進
- イ 豊かな情操を育てる
- ウ 豊かなかかわり、郷土愛を育む
- エ 情報教育の充実

3 教育課程の評価と改善

教育課程の評価については、年1回2学期末に児童、保護者、教職員を対象に学校評価アンケートを実施してその振り返りを行い、その結果を次年度の教育課程の編成に生かしている。また、毎学期「学校生活（いじめ）アンケート」を実施して、いじめの実態調査を行い、いじめの早期発見・解決に努めている。このアンケート調査では、学年ごとの「めざす児童像」に関する質問項目を入れ、その達成度を測る機会としている。

III 成果と課題

1 成果

本校の学校教育目標は「豊かな情操 知性を身につけた児童の育成」である。日常の学習活動や行事で見せる6年生の姿から、知性的な姿が多く見られ、その達成度は高い。このような児童の姿が成果である。

2 課題

小学校6年間の教育課程において、豊かな発想力や創造性、社会を生き抜く学力が育まれたかどうかは、評価が難しいところである。

IV 提言

校長は、学校教育目標の達成に向けて、日々率先垂範し、時に強力なリーダーシップを発揮しなければならない。

校長を含めた私たち教員は、子どもたちの発想や創造性を評価し大切に感性を持たなければならない。そして、これからの教育について先見性を持って常に研修に努め、教職員のよさや創造性を生かした学校運営が求められる。